

舗装にi-Construction

大同舗道

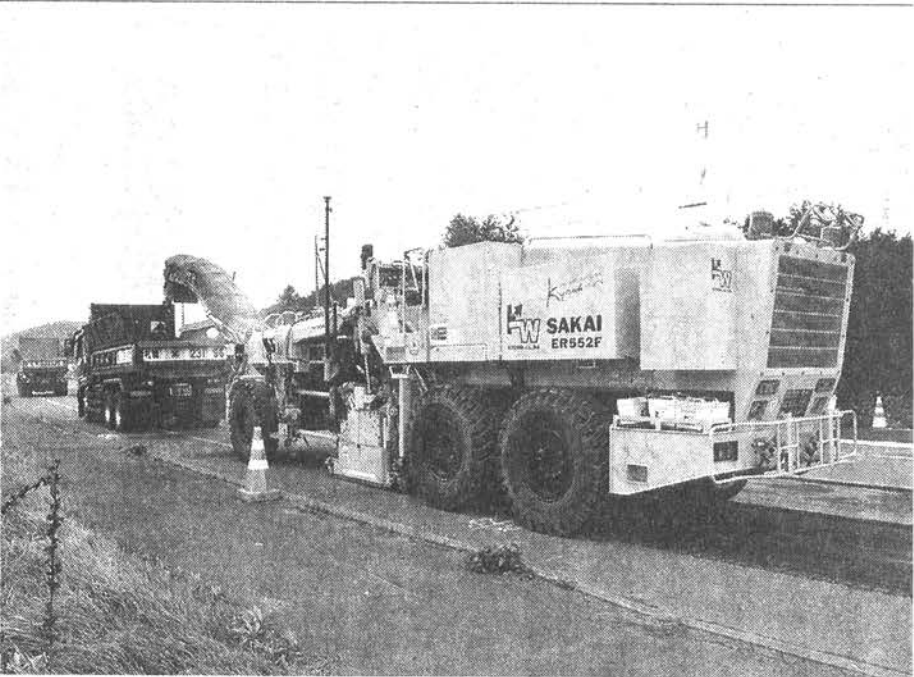
赤平の国道補修で自主導入

【岩見沢】札幌開建の一般国道38号赤平市平岸舗装補修ほかを施工する大同舗道（本社・札幌、横平聡社長）は4日、赤平市平岸地区の約300区間で、3次元（3D）データを活用した情報化施工に取り組んだ。3Dデータを基に作成された設計図とトータルステー

ションからの情報を連動させ、切削機が正確に路面を削り取っていった。

国土交通省はICT（情報通信技術）を活用して建設業の生産性向上を図る取り組みをi-Constructionと呼び、2016年度は直轄工事の土工に導入。17年度は舗装や構造物にも対象を拡大することを検討している。

現場代理人を務める菅原健太工事管理部工事課副長が、情報化施工の有用性確認やノウハウ取得を目指し、自主的に導入



3Dデータに基づいて施工する切削機

することを提案。創意工夫の枠内で、一部区間の施工が実現した。3Dデータの計測などはニシオレントオール北海道（本社・大阪）が、路面切削は今日和（同・札幌）が協力している。

菅原副長は「舗装にi-Construction

onを導入するのは道内では初めてだと思う」と語り、コスト面などで課題はあるものの、切削後や舗装後もレーザースキヤナーで計測することで施工管理や出来形管理にも応用できるため、省力化と生産性の向上につながる」と期待を示している。